

敗北逆アナル【END】勇者様は敗北しました。

清楚清廉だった彼女はふたなりサキユバスに堕ちて…

シーン2

「勇者様。お待たせして申し訳ございません。……あれ、どうかされましたか？」

「まるで魔物に遭遇した、幼い子供のように震えて……♡ 何か怖いことでもありました？ ふふふ♡」

「大丈夫ですよ♡ 安心してください♡ ああ、そうだ、お伝えしたいことがあります」

「白魔法での呪いの解呪はもう止めます。ええ、ええ♡ 私が間違っていたのです♡」

「おチンポ様がすべてを教えてくださいました」

「私はこれから、おチンポ様のために動くことを誓いました♡」

「手始めに……魔王様と和解しました。……ふふ♡ ちゃんと理由があるのです♡ 見ていて下さ♡」

「ふふふ♡♡ そうです♡ 私は……おチンポ様と完全に同化するため、サキユバスにして頂いたんです♡」

「こんな素晴らしいこと、人生で経験できるとは思っていませんでした♡」

「……魔物を討伐することは間違いだつたのです♡ これからはおチンポ様で人々を幸福に導きます♡」

「どうです？ 素晴らしいと思いませんか？ ふふふ♡♡」

「人間を魔物様の肉奴隷に仕立て上げること♡ これが人間の幸せなんですよ♡」

「勇者様なら、分かりますよね……♡♡♡」

「あらあら♡ 勇者様？♡ 私が怖い、ですか？……でも、それは嘘♡」

「……だつて勇者様の聖剣は、可愛らしく勃起♡ しているじゃないですか♡ 本当に可愛いですね♡ 勇者様♡」

「私のおチンポ様の竿の半分も届いてませんが♡ ええ、ええ♡ 大丈夫ですよ♡」

「そんな貧弱なよわよわチンポでも、おチンポ様は見捨てたりしません♡ ふふふ♡」

「ほら、見て下さい♡♡ 勇者様♡♡♡」

「こうして、おチンポ様に、勇者様の聖剣をすりすりして♡ ……ほら、とっつても熱いでしょう♡♡」

「匂いも♡ 硬さも♡ 感触も♡ おチンポ様の偉大さを直接感じ取ってください♡♡♡♡ はあ♡♡♡」

「それに、勇者様は、おチンポ様の偉大さを分かっているじゃないですか♡♡♡♡」

「あんなに可愛い喘ぎ声を上げて♡ びゅーびゅーって射精して♡ ケツまんこをたくさん突き上げられて♡ 気持ちよかったですよねっ♡ 今まで、生きて来た中で♡ 最高の快感を感じたんですよねっ♡」

「ふふふ♡ だったら大丈夫ですよ♡ 勇者様はぁ♡ ただ、おチンポ様の快楽に溺れたらいいのです♡ ん♡」

「おちんぼ様の穴奴隷になることが、一番幸せになれると思いませんか？♡ 考える必要すらないですよ♡ だって……今、おチンポ様にこすり付けてるだけの、勇者様のバッキバキに勃起したおちんちんが♡ 糸を引くくらい♡ 射精したがつてるんですから♡ くにくにくにゆつて♡ いやらしい音、出ちゃってますよ♡」

「きゅ♡ おチンポ様に触れて、勇者様の体が、この前の快感を思い出したんでしょうね♡」

「ん♡ はぁ……ふふふ♡ 安心してくださいね♡ 勇者様♡」

「ちゃあんと、勇者様の中に、いっぱい出してさしあげますから♡ ん♡ はぁ、はぁ、はぁ……♡」

「では、勇者様♡ おチンポ様に祈りましょうか♡ 信仰の心が、すべて開放してくれますから♡」

「ほら……跪いて♡ 祈るのです♡ 勇者様♡」

「さぁ、勇者様♡ おチンポ様に祈るのです……♡ そして、目の前にある、偉大なるおチンポ様にキスを♡……あぁ♡ なんて素直なのでしょう♡ 何度か祝福を受けたおかげで、勇者様の体の中に祝福が広がっているのですね♡」

「ん♡ はぁ……ふふふ♡ 勇者様の唇が……♡ 拙いキスが……♡ とても心地よいです♡」

「おチンポ様も♡ 喜んでますよ♡ ん♡ はぁ♡ はぁ♡ はぁ♡ ふふふ……♡」

「勇者様、何も恐れることはありませんよ♡ おチンポ様の形を、匂いを、熱を、快楽を、全て受け入れればいいのです♡」

「ええ、ええ♡ 勇者様♡ まずはおチンポ様をその可愛いお口で、受け入れてください♡ ん♡ はぁ♡」

「ん♡ あぁ♡ すい♡ 素敵ですよ♡ 勇者様♡ ん♡」

「おチンポ様を喉奥まで飲み込んで♡ すずすずすずすずすずすず♡ すべて受け入れる姿♡ ん♡」

「本当に♡ 素敵♡ ん♡ あっ♡ はぁ♡ はぁ♡ ん♡」

「これも♡ おチンポ様を喜ばせる、大切な作法のひとつですから♡ ん♡」

「はぁ♡ はぁ♡ ちゃんと射精させるまで♡ 受け止めてくださいねえ♡ ん♡」

「あぁ♡ イイ♡ 喉まで♡ すい♡ イイですよ♡ 勇者様も♡ ん♡」

「お口の中♡ 全部♡ おチンポ様でいっぱいです♡ ん♡ ん♡」

「はぁはぁ、ん♡ こんなに♡ 気持ちいいなんて♡ ん♡ やはり、勇者様は逸材です♡」

「いろんな穴で♡ おちんちん♡ ん♡ おチンポ様を喜ばせることが、できていますから♡ ん♡」



「んんっ♡ あっ♡ あっ、んんっ♡ ふふ♡ 勇者様の方が先にイキそうですかっ♡ ふふ♡  
「いいですよお♡ ほら、びゅーってしましよう♡ んっ、んんっ♡」

「ああ♡ いいですねえ♡ アナル犯されながら♡ 尻尾でシッコされて♡ 気持ちいいの、止まら  
なくなっただんですね♡」

「おチンポ様に感謝しながら♡ バカになっちゃいましょう♡ んっ♡ はあはあ、あっ♡ んっおおっ  
♡」

「はあ、はあ、んんっ♡ おっ、おおっ♡ 精子い♡ 上がってきましたっ♡」

「勇者様の中にっ♡ 注いであげますねえっ♡ んっ、んんっ♡ んんっおおっ♡おおっ♡おおっ  
っ……っ♡♡♡」

「んんんっ♡ ふーっ♡ ふーっ♡ はあ……♡ んっ♡ ああ……♡ 本当に、んっ♡ 勇者様  
のケツまんこは優秀ですね♡」

「おチンポ様を喜ばせるのが上手すぎて……♡ んんっ♡ 何度も何度も、突き上げたくなります  
♡ ふふふふ♡ 中出しするたびに、勇者チンポから射精する体になってきますっ♡」

「それとも、尻尾でシッコされながら、ケツまんこ♡ スボスボされるのが気持ち良すぎるのでし  
ょうっ♡♡」

「ああ♡ いいですねえ♡ おチンポ様の祝福が♡ 勇者様の体を巡って♡ 快楽を受け入れている  
のびす♡」

「はあ♡ はあ♡ はあ♡ んんっ♡ もっど、もっど、祝福してあげます♡ んんっ♡」

「こんな、優秀な穴♡ 使わないのはもったいないですからねえ♡ んんっ♡ あんっ♡」

「ああ♡ イイ♡ イイですよお♡ んんっ♡ 満足するまで♡ ケツまんこ、スボスボしてあげま  
すわね♡」

「んんんっ♡ いっぱいびゅーびゅーしてください♡ たくさん気持ちよくなってる♡ 見せて♡  
あんっ♡」

「勇者様のよわよわチンポ♡ 枯れちゃうくらい♡ バカになっちゃうくらい♡ 精子もいっぱい出  
しちゃって♡」

「んんっ♡ んんんっ♡ ああ♡ 締まるっ♡ おチンポ様がすごい喜んでますよ♡ 勇者様ア♡ んん  
んんんんんんんん……♡」